

# 狂気のチェロ

中木健二のチェロは、歌うことの強さ、響きの彫りの深さ……そこからたしかな〈声〉を感じさせる凄味をもっている。詩の融けた歌の深み、真摯と誠実を貫きながら〈愉しむ〉ことの豊かさも響かせてみせる音楽。——そして今、彼は新しい挑戦に立ちむかう。孤高の表現がきり拓いてゆく時間……題して《狂気のチェロ》。20世紀の名チェリスト・カサドが故郷カタルーニャの舞曲も取り込んだ〈無伴奏チェロ組曲〉には、我を忘れんばかりの昂揚を貫く(狂気じみた!)エネルギーの芯が見える。舞うことに潜む狂気の力は、黛敏郎が人形浄瑠璃の音楽表現を独奏チェロに託した《BUNRAKU(文楽)》にも強烈に響くはずだ。さらに時空を超えて、17世紀後半のフランス宮廷で活躍したマラン・マレが舞曲を基に絢爛たる変奏を織り上げた《ラ・フォリア》(その語源はまさに「狂気」だ)……古今東西の傑作たちを通して、音楽の〈狂気〉にこそ宿る、妖しくも激しい力の秘密へ、芸術の芯へと迫る。狂気の闇に身を沈めた哲学者・ニーチェは言った。「愛することには、いつも狂気がすこし潜んでいる。しかし狂気にも、いつも理性がすこし潜んでいる」。その「すこし」を、音楽は鮮烈に解き放つ。愛と理性を美しく響かせるばかりの音楽を超えて、そこに隠れた多彩なエネルギーへ……中木健二の〈凄絶〉を聴こう。

山野雄大(やまの・たけひろ/音楽評論家)



## 中木健二

(チェロ)

Kenji Nakagi, Cello

愛知県岡崎市出身。東京藝術大学を経て2003年渡仏、パリ国立高等音楽院、スイス・ベルン芸術大学の両校を首席で卒業。2005年第5回ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位、08年Note et Bien国際フランス音楽コンクールでグランプリならびにドビュッシー特別賞、プーレーズ特別賞を受賞するなど、受賞多数。2010年より14年までフランス国立ポルドー・アキテーヌ管の首席奏者を務めると共に、リサイタル、オーケストラとの共演、音楽祭出演など幅広い演奏活動を行う。帰国後はソリストとして活躍するほか、14年にアンサンブル天下統一(ヴァイオリン:長原幸太、ヴィオラ:鈴木康浩)を結成し定期的に演奏活動を行うなど、室内楽にも情熱を注いでいる。これまで共演したアーティストにはアッカルド、ジュランナ、メネセス、チュマチェンコ、イヴァルディ、ル・サーージュが含まれる。キングレコードよりCD「美しき夕暮れ」および「J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲全曲」をリリース。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京藝術大学音楽学部准教授。第11回名古屋音楽ペンクラブ賞受賞。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されている1700年製ヨーゼフ・グアルネリ。Thomastik Infeld社契約アーティスト。